

平成11(1999) 年度

# 鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

横枕所在遺跡 1  
横枕古墳群  
本高段木遺跡  
服部古墳群  
服部所在遺跡 1

平成11(1999) 年度 鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

1000

2000

鳥取市教育委員会

鳥取市教育委員会

## 序 文

鳥取市は海・山・大砂丘など豊かな自然環境に恵まれた山陰東部の中核都市として発展してまいりました。現在市内には数多くの遺跡が知られておりますが、全国的な近年の各種開発事業の増加とともにその取り扱いが重要課題となっております。もともと埋蔵文化財は、先人の生活を知る上で欠くべからざるものと言われてまいりましたが、特に環日本海交流が叫ばれる今日、先人たちの知恵・交流を窺い知ることは、これから的生活・交流等にかならずや役立つ市民の貴重な財産となりましょう。このような認識のもと鳥取市教育委員会では開発と文化財の共存を図るべく各関係機関の指導を得るとともに市民の皆様の深いご理解をいただきながら埋蔵文化財調査事業を進めております。

さてここに報告いたします横枕所在遺跡1、横枕古墳群、本高段木遺跡、服部古墳群、服部所在遺跡1の発掘調査事業も地権者の方々をはじめとする関係各位のご協力によって無事所期の目的を果たし、大きな成果を得て報告書刊行のはじびとなりました。

ささやかな冊子ではありますが、市民の皆様ならびに関係の皆様のご利用に供していただければ幸いです。

平成12年3月

鳥取市教育委員会

教育長 米澤秀介

## 例　　言

1. 本書は、平成11年度に国・県の補助金を得て鳥取市教育委員会が実施した埋蔵文化財の記録である。
2. 調査を実施した遺跡は横枕所在遺跡1、横枕古墳群、本高段木遺跡、服部古墳群、服部所在遺跡1である。
3. 本書に用いた方位は第1図、第2図、第7図を除き磁北を示す。また、レベル(H)は基本的に海拔標高であるがいくつかのトレンチについては任意のレベルを用いている。
4. 発掘調査によって作成された記録類および出土遺物は鳥取市教育委員会に保管されている。
5. 現地調査から本書の作成にあたっては、多くの方々から指導・助言ならびに協力をいただいた。厚く感謝いたします。
6. 発掘調査の体制は以下のとおりである。

発掘調査主体　　鳥取市教育委員会  
事務局　　鳥取市教育委員会文化課  
調査担当者　　前田　均・山田真宏・平川　誠

# 本文目次

序 文

例 言

目 次

|     |                             |    |
|-----|-----------------------------|----|
| I   | はじめに .....                  | 1  |
| 1.  | 発掘調査の契機と調査の目的 .....         | 1  |
| 2.  | 発掘調査の経過 .....               | 1  |
| II  | 横枕所在遺跡 1・横枕古墳群 .....        | 3  |
| 1.  | 遺跡の位置と環境 .....              | 3  |
| 2.  | 発掘調査の概要 .....               | 3  |
| 1)  | 横枕所在遺跡 1 .....              | 4  |
| 2)  | 横枕古墳群 .....                 | 4  |
| III | 本高段木遺跡・服部古墳群・服部所在遺跡 1 ..... | 8  |
| 1.  | 遺跡の位置と環境 .....              | 8  |
| 2.  | 発掘調査の概要 .....               | 12 |
| 1)  | 本高段木遺跡 .....                | 12 |
| 2)  | 服部古墳群 .....                 | 12 |
| 3)  | 服部所在遺跡 1 .....              | 15 |
| IV  | おわりに .....                  | 16 |
| 1)  | 横枕所在遺跡 1・横枕古墳群 .....        | 16 |
| 2)  | 本高段木遺跡・服部古墳群・服部所在遺跡 1 ..... | 16 |

写真図版

試掘調査トレンチ一覧表

報告書抄録

## 挿図目次

|   |    |
|---|----|
| 第1図 調査地周辺遺跡分布図  | 2  |
| 第2図 横枕所在遺跡1・横枕古墳群調査トレンチ配図                               | 3  |
| 第3図 横枕所在遺跡1 第1トレンチ実測図                                   | 4  |
| 第4図 横枕古墳群 第1・第2・第3トレンチ実測図                               | 5  |
| 第5図 横枕古墳群 第4・第5・第6トレンチ実測図                               | 6  |
| 第6図 横枕古墳群 第7・第8・第9・第10トレンチ実測図                           | 7  |
| 第7図 本高段木遺跡・服部古墳群・服部所在遺跡1調査トレンチ配図                        | 8  |
| 第8図 本高段木遺跡 第1・第2トレンチ実測図                                 | 9  |
| 第9図 本高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物実測図                                | 9  |
| 第10図 服部古墳群 第1トレンチ実測図(1)                                 | 10 |
| 第11図 服部古墳群 第1トレンチ実測図(2)                                 | 11 |
| 第12図 服部古墳群 第2・第3・第4・第5・第6・第7トレンチ実測図および<br>第7トレンチ出土遺物実測図 | 14 |
| 第13図 服部古墳群 第8・第9トレンチ実測図                                 | 15 |
| 第14図 服部所在遺跡1 第1・第2トレンチ実測図                               | 16 |

## 図版目次

|     |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| 図版1 | 1. 横枕所在遺跡1 調査地遠景(北東から)<br>2. 横枕所在遺跡1 第1トレンチ(北東から)<br>3. 横枕古墳群 調査地遠景(北東から)       | 図版8   | 1. 本高段木遺跡 第2トレンチ(北から)<br>2. 本高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物(1)<br>3. 本高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物(2)<br>4. 服部古墳群 調査地遠景(北東から) |
| 図版2 | 1. 横枕古墳群 第1トレンチ(南東から)<br>2. 横枕古墳群 第1トレンチ遺築検出状況(北西から) 図版9                        | 1. 服部古墳群 第1トレンチ(西から)<br>2. 服部古墳群 第1トレンチ断面(1)(北西から)<br>3. 服部古墳群 第1トレンチ断面(2)(北から) |   |
| 図版3 | 1. 横枕古墳群 第3トレンチ(東から)<br>2. 横枕古墳群 第3トレンチ断面(北東から)<br>3. 横枕古墳群 第4トレンチ断面(南から)       | 図版10  | 1. 服部古墳群 第1トレンチ断面(3)(北西から)<br>2. 服部古墳群 第2トレンチ(北から)<br>3. 服部古墳群 第3トレンチ断面(南から)                        |
| 図版4 | 1. 横枕古墳群 第5トレンチ(南東から)<br>2. 横枕古墳群 第5トレンチ断面(1)(東から)<br>3. 横枕古墳群 第5トレンチ断面(2)(東から) | 図版11  | 1. 服部古墳群 第4トレンチ(東から)<br>2. 服部古墳群 第5トレンチ断面(南西から)<br>3. 服部古墳群 第6トレンチ(南から)                             |
| 図版5 | 1. 横枕古墳群 第6トレンチ(西北から)<br>2. 横枕古墳群 第6トレンチ断面(北から)<br>3. 横枕古墳群 第7トレンチ(北東から)        | 図版12  | 1. 服部古墳群 第7トレンチ出土遺物<br>2. 服部古墳群 第7トレンチ断面(東北東から)<br>3. 服部古墳群 第8トレンチ断面(南から)<br>4. 服部古墳群 第9トレンチ断面(北から) |
| 図版6 | 1. 横枕古墳群 第8トレンチ断面(南から)<br>2. 横枕古墳群 第9トレンチ(南西から)<br>3. 横枕古墳群 第10トレンチ断面(西から)      | 図版13  | 1. 服部所在遺跡1 調査地遠景(東から)<br>2. 服部所在遺跡1 第1トレンチ断面(北東から)<br>3. 服部所在遺跡1 第2トレンチ断面(南から)                      |
| 図版7 | 1. 横枕古墳群 第11トレンチ石室検出状況(東から)<br>2. 本高段木遺跡 調査地遠景(北から)<br>3. 本高段木遺跡 第1トレンチ(西北西から)  |   |   |

# I はじめに

## 1. 発掘調査の契機と調査の目的

鳥取市は、鳥取県東部に位置する山陰の中核都市の一つで、行政区域面積は237.20km<sup>2</sup>、人口は平成11年7月現在で14万7,500人強を数え、鳥取県の県庁所在地として政治・経済・文化の中心的な役割を担っている。市の北側には広大な鳥取大砂丘と朝鮮半島・中国大陸へつながる日本海が広がり、中央部には中国山地から流れ出た千代川が南から北へと貫流している。市域の中心はこの千代川の沖積作用によって形成された鳥取平野が古めており、北側を除いたこの平野の周縁部は丘陵地となっている。近年まで平野部は主に水田等の耕作地として利用されるとともに、丘陵地は梨を中心とする果樹栽培地として本市内外へ農産物を供給してきた。しかしながら昨今では企業進出や農業の後継者不足等によってしだいに産業構造が変容するとともに土地利用も大きく変化している。

このような鳥取平野は、原始・古代から周辺地域の重要な生産基盤として人々の生活を支えるとともに交通の要所としても重要な位置を占め、政治・経済・文化の中心として現在に至っている。こうして今日恵まれた各種の条件を背景として鳥取市内には数多くの遺跡が残されてきている。遺跡の種類は各時代・各種にわたり、これまでの遺跡分布調査によって2,000ヶ所を超える古墳・遺物散布地等が確認されるとともに現在もその増加の一途をたどっている。このため各種開発事業等との調整が必要となる遺跡も近年急激に増加してきている。

今回報告する横枕所在遺跡1・横枕古墳群・本高段木遺跡・服部古墳群・服部所在遺跡1もそれぞれ前二者が浄水施設整備、後二者が道路整備の開発事業として計画され、事前に協議を受けたものである。各遺跡ともこれまであまり調査が実施されておらず、開発との円滑な調整に必要な具体的な資料に乏しく、今回それぞれの遺跡の範囲、遺構・遺物の有無と埋蔵状況、遺跡の性格等の資料を得ることを目的として発掘調査を実施した。

## 2. 発掘調査の経過

発掘調査は、各調査区ともトレーンチ掘削による遺構および遺物の包含状況の確認に主眼をおいて近接する横枕所在遺跡1(仮称)および横枕古墳群から着手し、その後降積雪のためたびたび中断を余儀なくされながら、本高段木遺跡、服部古墳群、服部所在遺跡1(仮称)を実施した。

横枕所在遺跡1は、平成11年10月20日から同月25日に谷部に1ヶ所のトレーンチを設定して調査を行った。調査面積は25.0m<sup>2</sup>である。

横枕古墳群は、一時期横枕所在遺跡1と並行して10月20日から11月19日まで、丘陵部の傾斜変換点や丘陵裾の石室の可能性のある石材露出部付近等に設定した11本のトレーンチについて調査を行った。調査面積は計110.7m<sup>2</sup>である。

本高段木遺跡は、平成11年12月27日から12月29日まで、水田に設定した2ヶ所のトレーンチについて調査を行った。調査面積は計54.9m<sup>2</sup>である。

服部古墳群は、平成12年1月19日から2月23日まで9本のトレーンチを設定して調査を行った。調査対象地の丘陵部は旧耕作や植林等によってかなり変化しており元地形が不明瞭であったため、尾根のほぼ中央を縱断する長いトレーンチを設定するとともに、そのほか傾斜の変換点等にトレーンチを設定した。調査面積は計130.2m<sup>2</sup>である。

服部所在遺跡1は、平成12年2月3日から2月23日まで2本のトレーンチを設定して調査を行った。調査面積は計10.9m<sup>2</sup>である。

以上5遺跡の調査面積の総合計は331.7m<sup>2</sup>となる。なおトレーンチはオープン掘削のため、安全性を考慮して段掘りにするなどの配慮をしたほか、一部については必要に応じて埋め戻しを行った。このため断面図は同一方向の壁面を合成したものもある。整理作業・報告書作成については現地調査時に着手し調査終了後まで実施した。



第1図 調査地周辺遺跡分布図

## II 横枕所在遺跡1・横枕古墳群

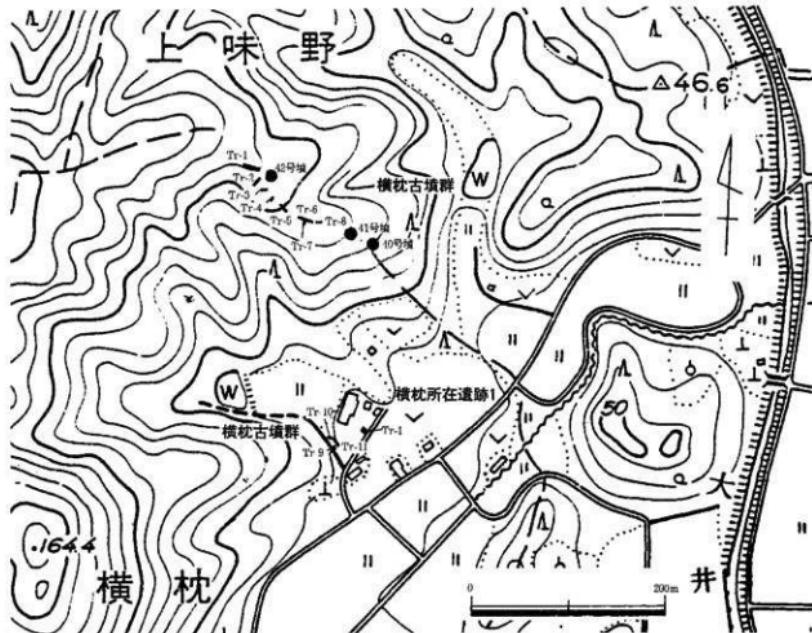
### 1. 遺跡の位置と環境

横枕古墳群は、JR鳥取駅から南西へ5.5kmの鳥取市横枕と上味野地内に所在し、横枕集落の北西丘陵、および東側の独立丘陵上に展開している。古墳群が立地する丘陵は標高約40~150mを測り、それぞれの古墳は稜線上や丘陵裾部に築造されている。丘陵の東側1.5kmには千代川が南北に流れ、丘陵からは両岸に形成された鳥取平野を望むことができる。横枕古墳群を構成する古墳は、現在51基知られている。規模的には直径10~15mあまりの円墳が大半を占めるが、直径20m前後を測る円墳もわずかながら含まれている。同古墳群における調査例は少なく、その詳細については不明瞭な点が多いが、横穴式石室をもつ古墳の存在も確認されている。周辺の遺跡をみてみると、本古墳群周辺の丘陵上には、玉津、下味野、北村、服部などの古墳群が立地し、90基あまりの古墳が築造されている。また、丘陵東側裾部の微高地では、横枕所在遺跡1（仮称）が遺物散布地として知られており、詳細不明ながら遺跡が存在する可能性が指摘されている。

### 2. 発掘調査の概要

今回の発掘調査は、浄水施設整備計画に伴い実施したものである。調査対象遺跡は横枕所在遺跡1および横枕古墳群である。調査は事前の分布調査結果をもとに、標高28~32mあまりの丘陵裾部、および古墳群が展開する標高94.5~104mの主稜線上を対象として行った。

横枕所在遺跡1の調査は、丘陵裾部の標高28m前後の微高地平坦部にトレーニングを設定して実施した。調査の結果、遺構は確認されなかった。



第2図 横枕所在遺跡1・横枕古墳群調査トレーニング配図

横枕古墳群の調査では、調査対象地内に所在する横枕40、41、42号墳周辺にみられる不整形な隆起状地形部分を中心として8ヶ所にトレンチ（第1トレンチ～第8トレンチ）を設定した。また、丘陵裾部で確認された、石材露出個所に3本のトレンチ（第9トレンチ～第11トレンチ）を設定して調査を実施した。調査の結果、土坑、溝状造構、盛土が確認されたほか、第11トレンチでは横穴式石室の一部とみられる石材が検出された。

### 1) 横枕所在遺跡1

**標高28.3mあまりを測る丘陵裾部の微高地に設定した5×5mのトレンチである。調査地は現在畑耕作が行われており、上層には厚さ15～20cmの耕作土が見られる。耕作土以下は黄褐色砂（第2層）、暗**

褐色シルト（第3層）、暗灰色粘質土（第4層）が堆積し、地表下約60cmで地山となる。第2層は畑地造成時の客土で、第3層が旧表土と考えられる。また、トレンチのはば中央から暗渠が検出され、水田耕作が行われていたことが窺われる。第4層が水田耕作時の堆積土と思われる。遺構は検出されなかった。遺物は、暗渠埋土から須恵器片3点が出土している。

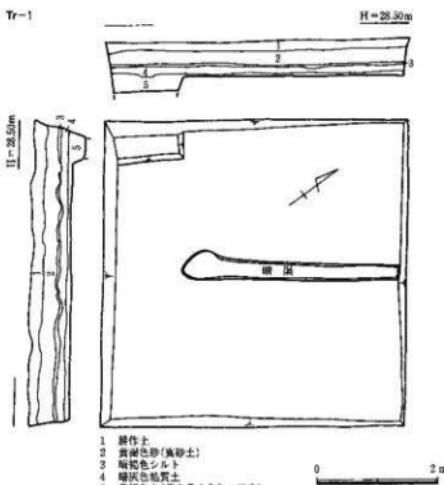
### 2) 横枕古墳群

横枕42号墳を廻る周溝西側の尾根平坦部に設定した18.1×2.0mのトレンチである。厚さ6～14cmの表土下に均一の暗褐色土が堆積し、その下層が地山となる。調査の結果、トレンチ東隅から地山に掘り込まれた土坑を検出した。未完掘のため詳細不明であるが、42号墳の周溝外縁に近接する位置にあり、幅90cm、深さ40cm前後を測る。平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。遺物は、表土中から土師器片が1点出土した。

**横枕42号墳の南西側緩斜面に設定した10×1.75mのトレンチである。地表下8～16cmに厚さ7～18cmあまりの均一の黄褐色土が堆積しており、その下層が地山となる。遺構、遺物は検出されなかった。**

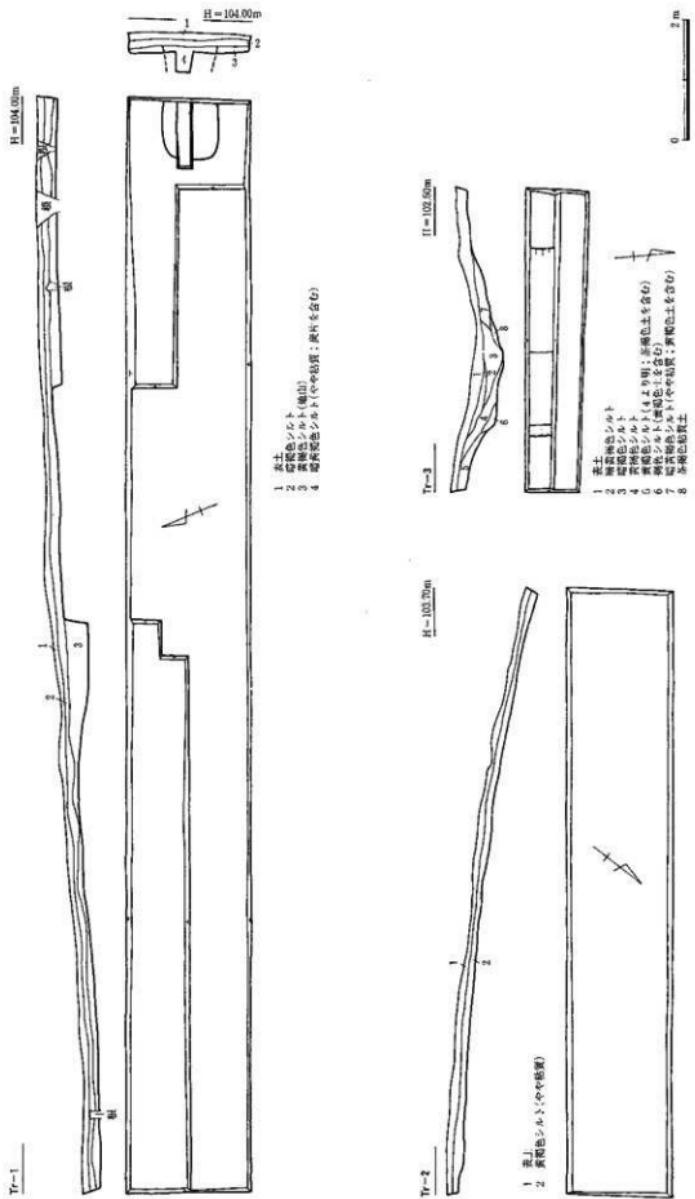
横枕42号墳の南側にみられる不整形な隆起状地形の裾部に設定した5×1mのトレンチである。厚さ10～22cmの表土を除去した段階でトレンチ中央から溝状造構を検出した。溝は地山を削りながら、断面逆台形状に掘り込まれている。溝の埋土は第2～4、6～7層とみられ、順次埋まっていた様子が窺われる。古墳に伴う周溝の可能性が考えられる。遺物は検出されなかった。

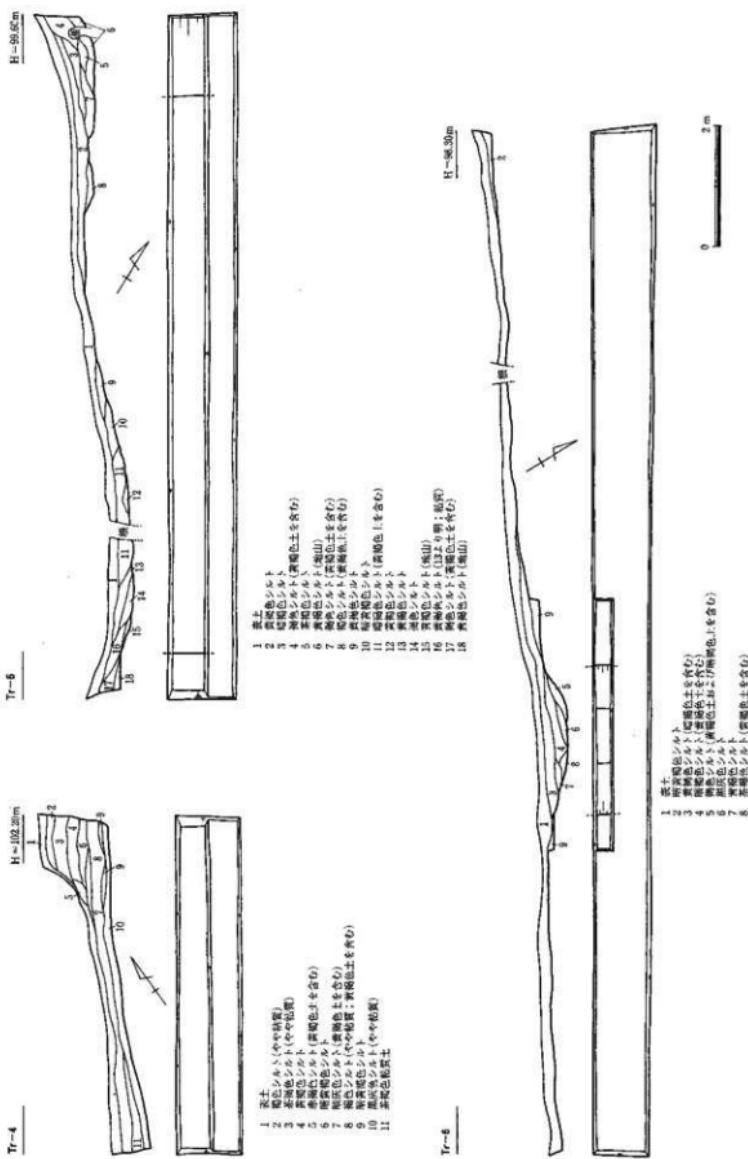
第3トレンチの南東約10mに位置し、不整形な隆起状地形の頂部から斜面にかけて設定した5.6×1mのトレンチである。地表下32～101cmでやや粘質の黒灰色土（第10層）を検出した。第10層は6～12cmの厚さで帶状に堆積しており、その上層には黄褐色土混じりの土が整然と盛られている。第10層上面が旧地表面とみられ、上層の第2～9、11層が堆積状況から古墳築造に伴う墳丘盛土と推察される。盛土



第3図 横枕所在遺跡1 第1トレンチ実測図

第4図 横坑古墳群 第1・第2・第3トレンチ実測図





第5図 横枕古墳群 第4・第5・第6・第6トレーナー実測図

の厚さは最大91cmを測る。遺物は、表土中から須恵器片1点が出土した。

#### 第5トレンチ(Tr-5)

尾根上に見られる2ヶ所の隆起状地形の間に設定した11.3×1.1mのトレンチである。トレンチ両端の北西側と南東側で浅い溝状の落ち込みを検出した。溝は各隆起状地形の裾部にあたり、地山をわずかに削り出して造っている。溝の幅は北西側1.1m、南東側の溝4.9mを測り、深さはそれぞれ14cm、30cmあまりである。断面にみる第4層と第17層には、地山の黄褐色土がブロック状に含まれることから盛土の可能性が考えられる。遺物は検出されなかった。

#### 第6トレンチ(Tr-6)

尾根上の平坦部に設定した17×1mのトレンチである。地表下9~20cmで地山に掘り込まれた溝状遺構を検出した。溝は幅2.45m、深さ30cm前後を測り、尾根主軸に対してもおむね直交するものと思われる。遺物は、トレンチ南東側の表土中から須恵器片が1点出土した。

#### 第7トレンチ(Tr-7)

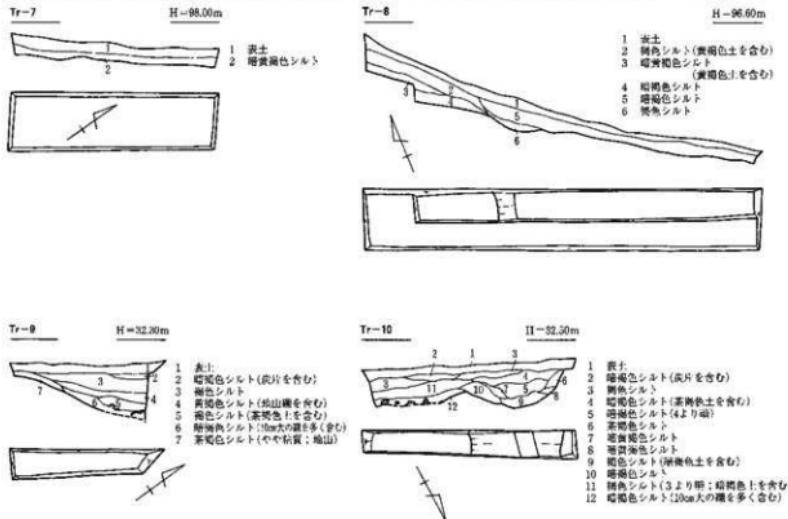
第6トレンチ南側に見られるわずかな隆起部に設定した3.5×1mのトレンチである。地表下14~21cmで均一の暗黄褐色土が厚さ8~15cmあまり堆積し、その下層が地山となる。遺構、遺物ともに検出されなかった。

#### 第8トレンチ(Tr-8)

丘陵稜線上の傾斜変換点に設定した6.5×1mのトレンチである。トレンチの下方稜線上には横枕40、41号墳が位置している。傾斜変換点の地表下約40cmで地山のカット面を検出した。このカット面の上方斜面には旧表土と思われる暗褐色土(第4層)がみられ、その上層には黄褐色土をブロック状に含む第2、第3層が堆積している。この第2、第3層が盛土と考えられ、古墳の存在が予想される。遺物は検出されなかった。

#### 第9トレンチ(Tr-9)

露出した石材の背面に設定した2.3×0.44mのトレンチである。厚さ15cm前後の表土下に暗褐色シルト



第6図 横枕古墳群 第7・第8・第9・第10トレンチ実測図

(第2層)、褐色シルト(第3層)、黄褐色シルト(第4層)、褐色シルト(第5層)、暗褐色シルト(第6層)などの堆積が見られる。第4、第5層には地山礫や黄褐色土がブロック状に含まれ、第6層には10cm大の礫が多量に混入している。全体に整った堆積状況を示しており、人為的に置かれた様相を呈している。第3～6層は、第11トレンチで検出した石室側壁の背後に置かれた土と思われる。遺物は検出されなかつた。

#### 第10トレンチ (Tr.10)

第9トレンチの北西側に設定した3.5×0.44mのトレンチである。トレンチ北西側から地山をしっかり掘り込んだ溝状造構を検出した。溝は幅1.5m、深さ60cm前後を測り、断面U字形を呈する。位置的には第11トレンチで検出した横穴式石室の奥壁背面にあたることから古墳に伴う周溝と考えられる。遺物は、須恵器片4点が出土した。

#### 第11トレンチ (Tr.11)

石材が露出する法面に設定したトレンチで、調査面積は4.5m<sup>2</sup>である。調査の結果、長さ70～110cm、厚さ70cm前後の石材3石がL字形に組まれた状態で検出された。石材は平滑面を内面に向けて立てられている。大半を失うものの横穴式石室の一部とみられ、奥壁および側壁の腰石と考えられる。また、石組の南東側法面には長さ1mの大石材2石が露出していたが、これらについても原位置を失った石室材と思われる。遺物は検出されなかつた。

### III 本高段木遺跡・服部古墳群・服部所在遺跡1

#### 1. 遺跡の位置と環境

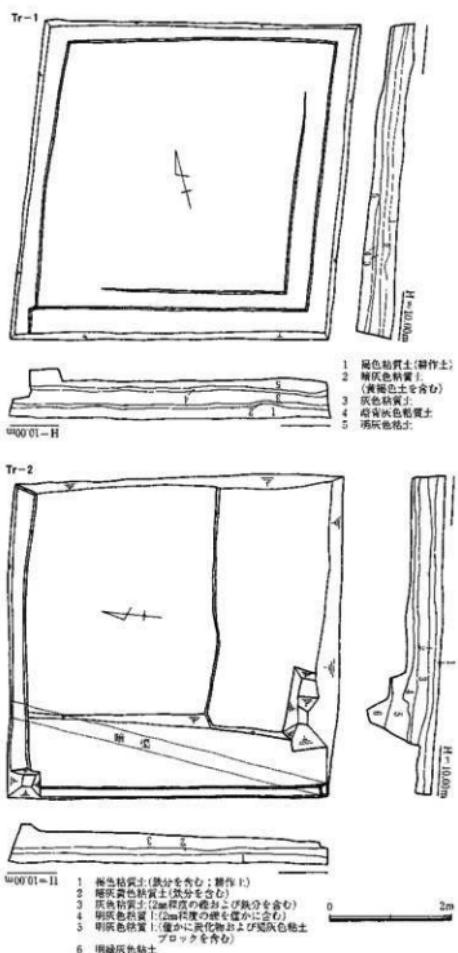
今回の発掘調査は道路整備計画に伴って実施したもので、対象遺跡は本高段木遺跡、服部古墳群およ



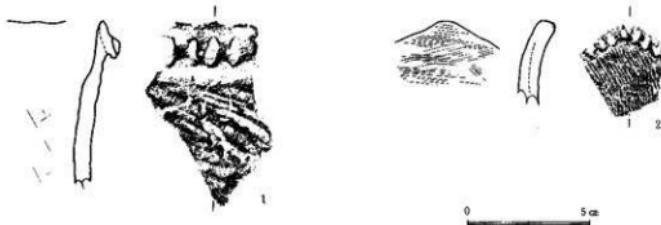
第7図 本高段木遺跡・服部古墳群・服部所在遺跡1調査トレンチ配置図

び服部所在遺跡1(仮称)である。各遺跡は東に千代川を望む鳥取市本高、服部地内に所在し、JR鳥取駅の南西約3kmに位置する。周辺には鳥取平野に向けて中国山地から伸びる丘陵あるいはその縁辺部の独立丘陵が形成されている。本高段木遺跡は標高30~80mの独立丘陵の北側裾部から須恵器等の土器片が散見され、詳細は不明瞭ながら周辺に遺跡が存在することが知られている。次いで服部古墳群はこの独立丘陵上に32基をもって形成され、丘陵の最高所に全長約32.5mの前方後円墳(服部23号墳)が占位し、これから東側へ下る尾根上に直径15m前後の円墳が連なる。また服部所在遺跡1(仮称)も同一丘陵の別の稜線付近に平坦部や傾斜変換地形等が認められることから遺跡が存在する可能性が指摘されているものである。

周辺の遺跡としては、千代川水系の氾濫原にあたる平野部では、服部集落西側の標高7~8m程度の微高地上に服部遺跡が位置し、圃場整備の際に弥生時代後期の土器や大足・田下駄等の木製品が出土しているほか、独立丘陵「釣山」の北側には山ヶ鼻遺跡、菖蒲遺跡が位置して、縄文時代後期~中世の遺構や遺物が検出されている。さらにその東には白鳳期創建と推察されている菖蒲魔守跡がある。また、丘陵上には横枕古墳群、下味野古墳群、釣山古墳群などが形成されている。

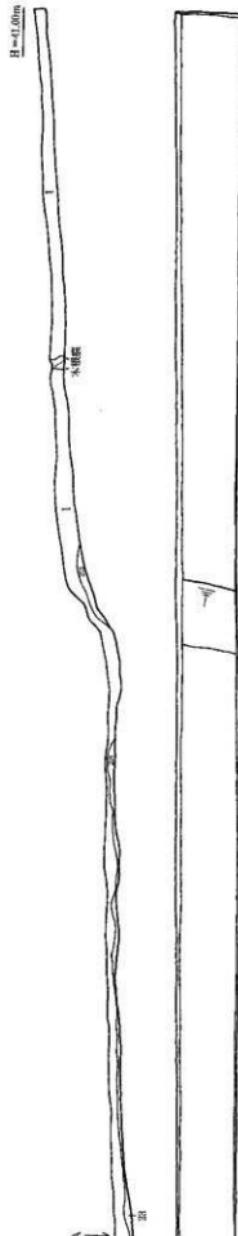


第8図 本高段木遺跡 第1・第2トレンチ実測図

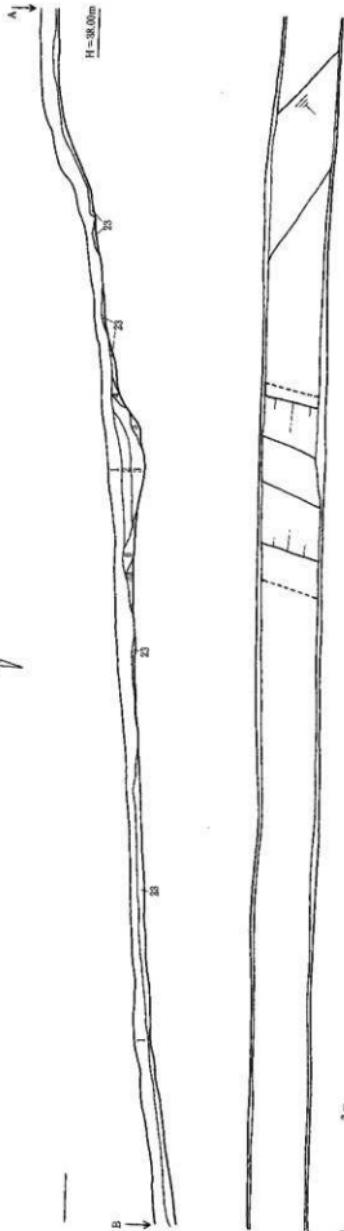


第9図 本高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物実測図

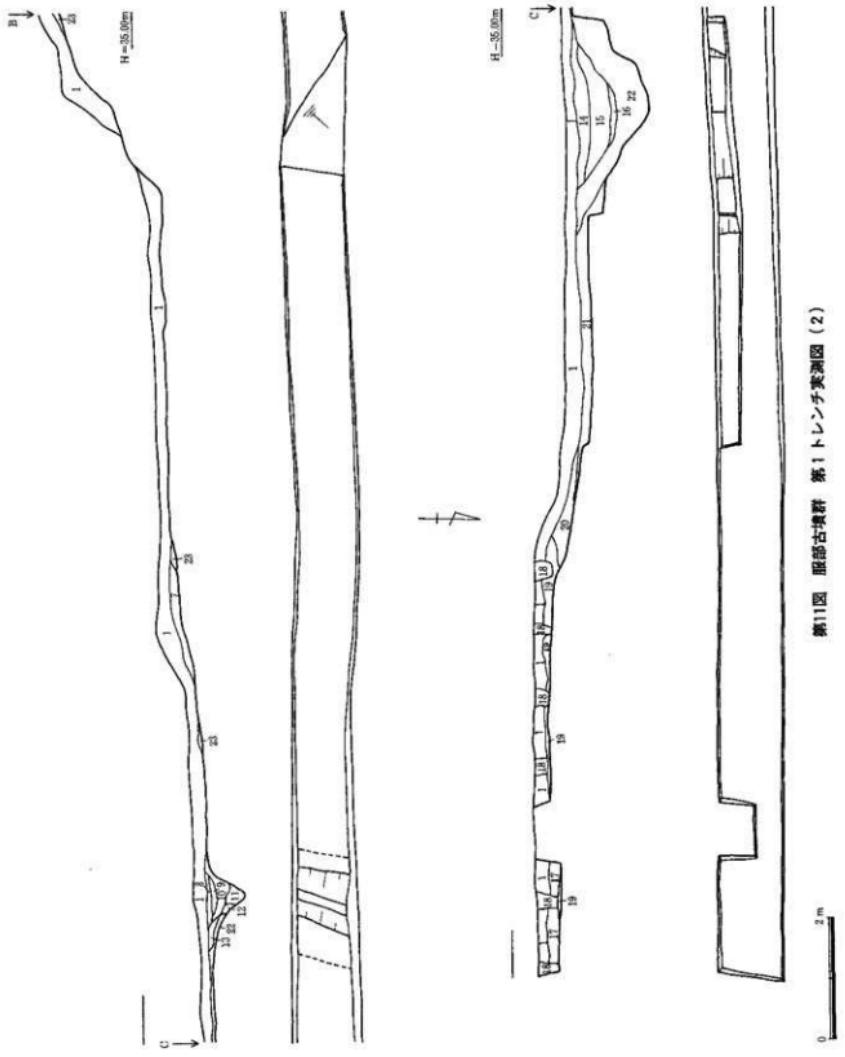
T-1



- 1 褐色土(はりいろ)、薄黄色粘土(ほりやしやく)
- 2 黄褐色粘土(きいろ)
- 3 黄褐色粘土(きいろ)
- 4 黄褐色粘土(きいろ)
- 5 黄褐色粘土(きいろ)
- 6 黄褐色粘土(きいろ)
- 7 黄褐色粘土(きいろ)
- 8 黄褐色粘土(きいろ)
- 9 黄褐色粘土(きいろ)
- 10 黄褐色粘土(きいろ)
- 11 黄褐色粘土(きいろ)
- 12 黄褐色粘土(きいろ)
- 13 黄褐色粘土(きいろ)
- 14 黄褐色粘土(きいろ)
- 15 黄褐色粘土(きいろ)
- 16 黄褐色粘土(きいろ)
- 17 黄褐色粘土(きいろ)
- 18 黄褐色粘土(きいろ)
- 19 黄褐色粘土(きいろ)
- 20 黄褐色粘土(きいろ)
- 21 黄褐色粘土(きいろ)
- 22 黄褐色粘土(きいろ)
- 23 黄褐色粘土(きいろ)



第10図 屋敷古墳群 第1トレンチ実測図 (1)



第11図 服部古墳群 第1トレンチ実測図 (2)

## 2. 発掘調査の概要

本高段木遺跡の調査対象地は、前述のとおり独立丘陵北側裾部の標高10m弱の水田部にあたり、2ヶ所のトレンチ(T r - 1, T r - 2)を設定した。調査の結果、遺構は確認されなかった。

服部古墳群の調査は、事前の分布調査の結果をもとに古墳群が展開する東西に伸びる丘陵の標高34~40mの主稜線上、および小尾根の傾斜変換点、段状地形部分を中心として計9ヶ所のトレンチ(T r - 1~T r - 9)を設定した。調査の結果、土坑、溝状造構が確認された。

服部所在遺跡1は、古墳群とは別の稜線上の傾斜変換点等を中心として計2ヶ所のトレンチ(T r - 1, T r - 2)を設定した。調査の結果、遺構・遺物とも検出されなかった。

### 1) 本高段木遺跡

#### 第1トレンチ (T r - 1)

標高9.9m弱の水田部に設定した5.21×5.25mのトレンチである。褐色粘質土の水田耕作土下は自然堆積の順層で、鉄分を含む暗灰色粘質土(第2層)、灰色粘質土(第3層)、暗青灰色粘質土(第4層)、明灰色粘土(第5層)と続く。このうち第3層から土師質皿片が僅かに出土している。なお遺構は検出されておらず、遺物もローリングを受けており二次堆積の可能性が考えられる。

#### 第2トレンチ (T r - 2)

第1トレンチの西10.2mに設定した5.19×5.32mのトレンチである。褐色粘質土の水田耕作土下は自然堆積の順層で、鉄分を含む暗灰黄色粘質土(第2層)、灰色粘質土(第3層)、明灰色粘質土(第4、第5層)、明緑灰色粘土(第6層)と続く。このうち耕作土中から土師器および須恵器の細片が出土したほかは第2~5層から僅かに遺物が出土している。そのうち第4層からは縄文時代晩期の尖端文に深い刻み目を持った深鉢片や、端部に刻み目を持つ内外面ハケ目調整の波状口縁部片をはじめとして、土師器片、須恵器片、土師質皿片等が出土している。なお遺構はトレンチの西側から現在の暗渠が確認されたほかには検出されておらず、遺物もローリングを受けており二次堆積の可能性が考えられる。

### 2) 服部古墳群

#### 第1トレンチ (T r - 1)

調査対象地の東西に伸びる独立丘陵のほぼ中央部は以前小規模な区画の畠作地等として利用され、その後植林あるいは荒れ地・雑木林となっているところである。この丘陵の両側には服部古墳群を構成する古墳がいずれの方向にも続いている(…服部14・15・16号墳、17・18・19号墳…)、この地区にも古墳等の遺構の存在が想定されたが、地形もかなり変更されていると思われたため、丘陵を縦断する形で標高34.6~40.8m付近の主稜線上に73.2×1.0mのトレンチを設定した。表上(にぶい黄褐色粘質土)下はトレンチ東端部に耕作地を造成する際の部分的な盛土(第18層)が認められる他は基本的に地山である。

調査の結果、トレンチ中央よりやや西側から浅い土坑状遺構1基を検出した。当初溝状造構の可能性も考えて後述の第2トレンチを設定したが、その結果土坑状造構と判断したものである。断面形は浅い皿状で、規模は断面検出値ながら幅3.3m、深さ0.56mを測る。またトレンチの東側1/4付近から溝状造構1条と、その約1.6m東から土坑状造構1基を検出した。両遺構ともその広がりをつかむために後述の第3、第4トレンチを設定した結果、それぞれ溝状・土坑状としたものである。前者はV字状の断面を持つもので、規模は幅1.7m、深さ0.65mを測る。また後者は、浅い椀状の断面形を持つもので規模は断面検出値ながら幅2.8m、深さ0.7mを測る。遺物は表土中から陶器片1点が出土しているが、遺構からはいずれも検出されなかった。

なおトレンチ東端部では、表土上からほぼ並行に90cm間隔で掘り込まれた現代の耕作等に関連したものと思われる溝6条を検出した。

#### 第2トレンチ (T r - 2)

第1トレンチの南約3.5mに同トレンチにはほぼ並行に設定した1.9×0.75mのトレンチで、標高は37.5m

程度である。上述のとおり第1トレンチで検出した遺構の広がりを確認するために設定したものである。調査の結果、表土下は自然堆積の順層と考えられ、遺構・遺物とも検出されなかった。このことから前述の遺構は市に大きく伸びるものではないことを確認した。

#### 第3トレンチ(Tr-3)

第1トレンチの南約2mに向トレーニチにはほぼ並行に設定した3.5×0.6mのトレンチで、標高は34.7m程度である。第2トレンチと同様に第1トレンチで検出した遺構の広がりを確認するために設定したものであるが、ちょうどこのトレンチの北壁部分が土地の境界に当たり、ここを境に北側・南側とも耕作等によって削平されている。調査の結果、表土下の暗黃褐色粘質土層に第1トレンチから続くとみられる地山を掘り込む溝状遺構を検出した。同トレンチの結果と合わせると、平面的には西にやや突き出る緩やかなカーブを描く溝の可能性が考えられる。なお遺物は検出されなかった。

#### 第4トレンチ(Tr-4)

第1トレンチの南約2mで同トレンチにはほぼ直角に設定した3.8×1.1mのトレンチで、標高は34.25m程度である。第2、第3トレンチと同様に第1トレンチで検出した遺構の広がりを確認するために設定したものであるが、第3トレンチと同様にトレンチの北壁部分が土地の境界に当たり、ここを境に北側・南側とも耕作等によって削平されている。調査の結果、北壁断面の表土下で僅かに落ち込みを検出したが(第2層)、第1トレンチから続く遺構である可能性も考えられる。ただ南側は既に削平されておりその広がりを確認することはできなかった。なお遺物は表土中から磁器片が検出されている。

#### 第5トレンチ(Tr-5)

丘陵尾根上で標高34.55m付近の平坦部に第1トレンチの東端部とほぼ直角になるように設定した5.2×1.0mのトレンチである。トレンチの南側は旧耕作あるいは植草栽培等による削平があったようで、段差約1.7mのカットがなされている。調査の結果、表土下に耕作地造成の際に周辺の古墳(服部16号墳)等を崩して行ったと考えられる盛土(第3層)が認められたほかは自然堆積の順層で、遺構・遺物とも検出されなかった。

#### 第6トレンチ(Tr-6)

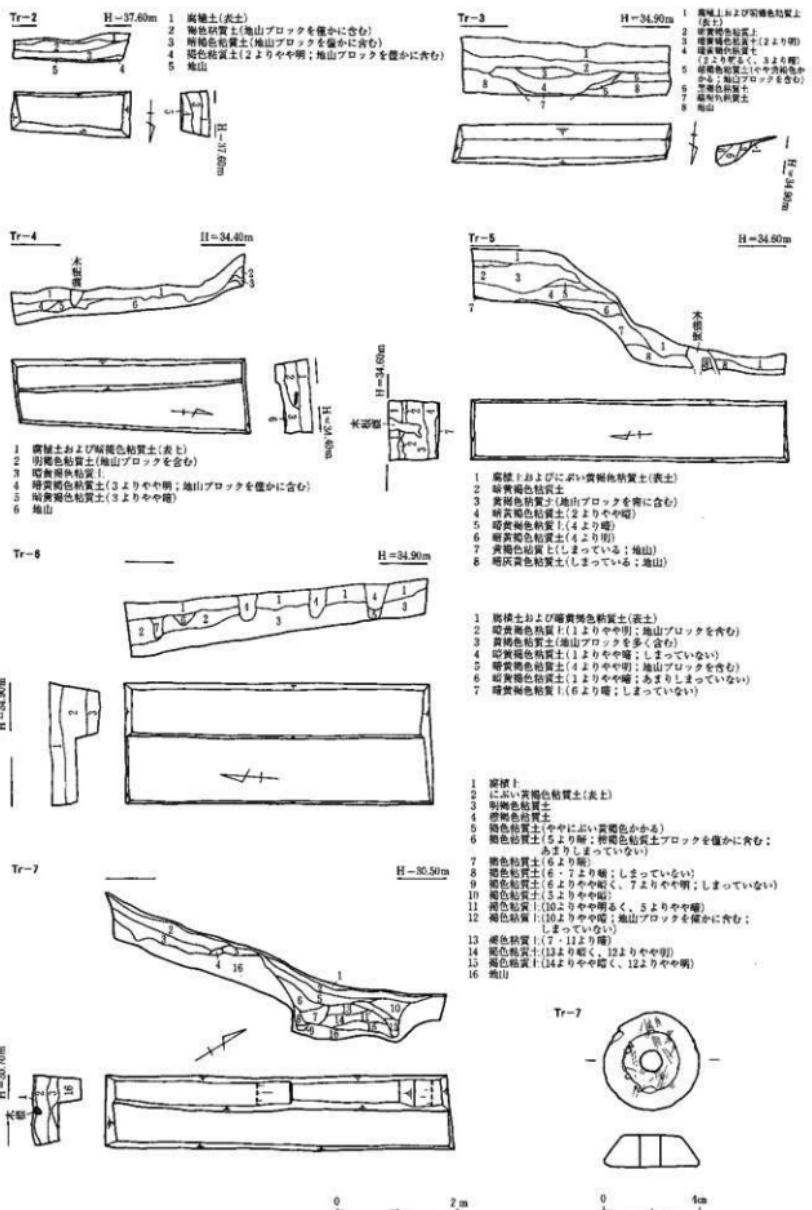
第5トレンチの第1トレンチを挟んだ北側延長線上に設定した5.03×1.97mのトレンチである。表土下は第5トレンチと同様に周辺の古墳(服部16号墳)等を崩して行ったと考えられる盛土(第2、第3層)が認められるがその下は地山となる。調査の結果、第1トレンチから検出したものと同様の、ほぼ90cm間隔で並行に表土上から掘り込まれた現代の耕作等に関連したものと思われる溝3条を検出したが、そのほかには遺構は検出されなかった。なお遺物は服部16号墳に伴うものの可能性も考えられる須恵器片が出土している。

#### 第7トレンチ(Tr-7)

丘陵主稜線から北にやや下った標高28.1～29.8m付近、第6トレンチの東北東約30mの傾斜変換点に設定した5.66×1.17mのトレンチである。調査の結果、表土下から地山を掘り込む土壤状の遺構1基を検出し、その埋土中から石製の紡錘車1個が検出された。遺構の規模はトレンチ断面の検出値ながら、長さ2.88m、深さ1.38mを測る。土壙の検討からは明確な盛土等の古墳を示すものは認められなかったが、周辺の地形から盛土の流失してしまった古墳か、あるいは土壤墓の可能性が考えられる。

#### 第8トレンチ(Tr-8)

丘陵主稜線から北北東に派生する標高28.6～29.3m程度の小尾根稜線上に認められる地形の隆起部分に設定した14.5×1.16mのトレンチである。これまで古墳(服部32号墳)が所在するとされてきた地点であるが、調査の結果、表土下は一部に暗黃褐色粘質土層(第2層)が認められるほかは基本的に地山で、盛土や周溝地盤といった層序の変化は認められなかった。またトレンチ中央よりやや北側で地山をカットする段差が認められるが旧耕作等の際のものと考えられる。遺物も検出されていないことなどからこの



第12図 服部古墳群 第2・第3・第4・第5・第6・第7トレンチ実測図および第7トレンチ出土物実測図

隆起状地形は後世の削平等による残丘状のものと判断される。

#### 第8トレンチ(下) (図-9)

第8トレンチの北東約5.5m、標高26.1~27.1m付近の比高差80cm程度の段状地形をまたぐ形で設定した9.1×1.2mのトレンチである。トレンチは上段・下段とも現状ではほぼ平坦で、北東側の下段は表土下はすぐ地山となり、南北西側の上段は表土下に褐色粘質土(第2、第4、第5層)および暗褐色粘質土(第3層)が堆積する。いずれの段も旧耕作等の人为的な堆積と考えられ、下段は稜線の上位をカットして平坦面を造り出し、上段は稜線の上位から上を搔き出して盛ることで平坦面を造り出したものと考えられる。しかしながらこれら以外には遺構は検出されなかった。なお遺物は下段表土中から土器細片1点、および上段表土中から角釘1点が出土している。

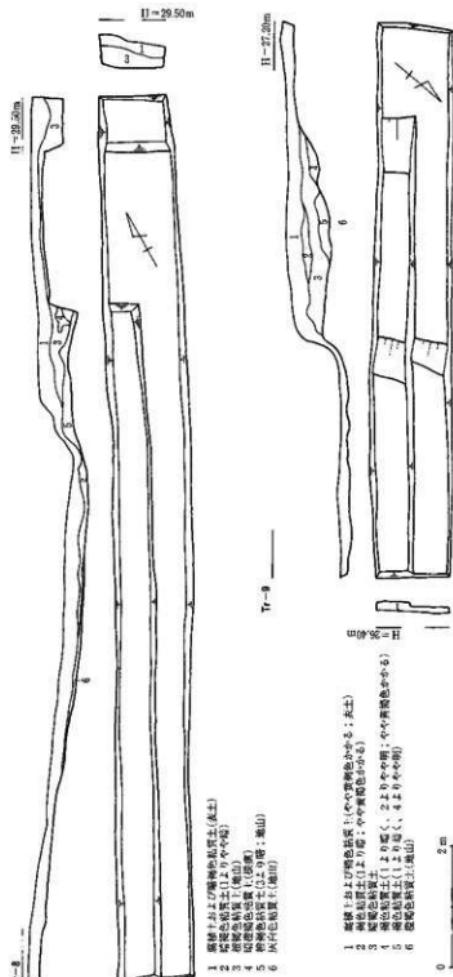
#### 3) 服部所在遺跡1

##### 第9トレンチ(下) (図-9)

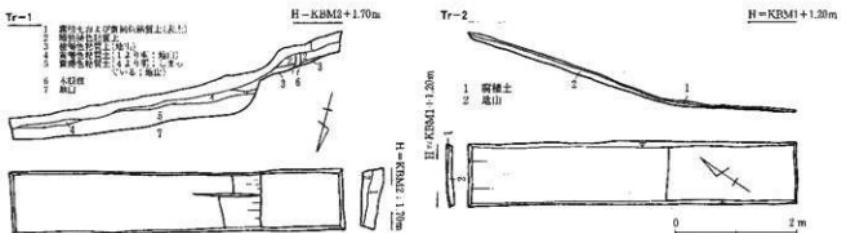
服部古墳群とは同一の独立丘陵ながら、別の東西方向に伸びる稜線上の傾斜変換点に設定した5.5×1.0mのトレンチで、標高は22~24m程度である。調査の結果、表土下はトレンチの高位側に部分的に暗黄褐色粘質土(第2層)が認められるがそれ以外はすぐ地山で、明瞭に遺構の存在を示す土層の変化は認められず、遺物も検出されなかった。

##### 第2トレンチ(下) (図-2)

第1トレンチの南西約30m、丘陵主稜線よりやや南側の傾斜変換点に設定した5.4×1.0mのトレンチで、標高は28m程度である。調査の結果、厚さ2~3cmの腐植土(表土)下はすぐ地山で遺構存在を示す明瞭な土層の変化や地山のカット等は認められず、遺物も検出されなかった。



第13図 服部古墳群 第8・第9トレンチ実測図



第14図 服部所在遺跡1 第1・第2トレンチ実測図

## IV おわりに

### 1) 横枕所在遺跡1・横枕古墳群

今回の調査は、浄水施設整備に伴って実施した事前の試掘調査である。調査は、事業地内に所在する横枕所在遺跡1（仮称）、および横枕古墳群を対象として実施した。

横枕所在遺跡1の調査は、丘陵裾部の標高28m前後の微高地にトレンチを設定して行った。調査地は現在畑として利用されているが、この畑造成のための改変がかなり行われていた。明確な遺構は確認されなかったが、近・現代のものとみられる暗渠排水溝が検出され、埋土中から須恵器片が出土した。

横枕古墳群の調査は、古墳群が展開する丘陵主稜線上と丘陵裾部に計11本のトレンチを設定して行い、周溝とみられる溝状構造（第3、5、6、10トレンチ）や、盛土（第4、5、8、9、10トレンチ）、墳丘裾部を意識したとみられる地山成形面（第8トレンチ）、横穴式石室の一部とみられる石材（第11トレンチ）が検出された。その結果、第3・4・5トレンチ調査、第5トレンチ調査、第6・8トレンチ調査、第9・10・11トレンチ調査のそれぞれによって新たに計4基の古墳の存在が確認されることとなった。また、第1トレンチでは土坑1基が検出されており、周辺に古墳以外の遺構が存在することが確認された。このことからこの周辺では古墳単位ではなく平面的な調査を考慮する必要があると考えられる。

### 2) 本高段木遺跡・服部古墳群・服部所在遺跡1

今回の調査は、道路整備計画に伴って実施した事前の試掘調査である。調査は、事業地内に所在する本高段木遺跡、服部古墳群、および服部所在遺跡1（仮称）を対象として実施した。

本高段木遺跡の調査は、平野が独立丘陵と入り組む標高9.9m弱の水田部に2ヶ所のトレンチを設定して実施した。その結果明瞭な遺構は検出されず、僅かに縄文時代晚期から古代・中世にかけての土器片が出土したが、いずれもローリングを受けた二次堆積によるものと判断された。ただこれらの遺物は周辺に当該時期の遺構等が存在する可能性を示すものといえ、今後も周辺地域に注意を払っていく必要があろう。

服部古墳群の調査は、古墳群が展開する丘陵主稜線上とそこから派生する支稜線の傾斜変換点等に計9ヶ所のトレンチを設定して実施した。調査の結果、溝状構造（第1、第3トレンチ）や上坑（土壙）状遺構（第1、第7トレンチ）が検出された。当初想定された古墳の存在は明瞭には確認できなかったが、その他の遺構が存在しており、本古墳群を構成する各古墳周辺にも注意を要するものと考えられる。

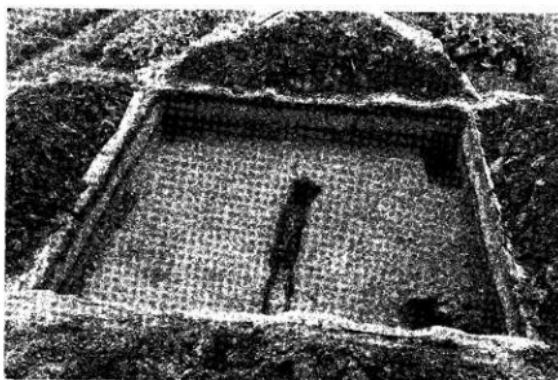
服部所在遺跡1は服部古墳群と同一丘陵の別の稜線付近に平坦部や傾斜の変換等が認められ遺跡の存在する可能性が指摘されてきたものであるが、調査の結果明瞭に遺構を示す土堀変化や遺物の出土もなく、遺跡の確認をすることはできなかった。ただ現状での地形等の変化は認められており、今後とも注意は必要と思われる。

# 写 真 図 版

図版 1



1. 横枕所在遺跡1  
調査地遠景 (北東から)



2. 横枕所在遺跡1  
第1トレンチ (北東から)



3. 横枕古墳群  
調査地遠景 (北東から)

図版 2



1. 横枕古墳群  
第1トレンチ (南東から)

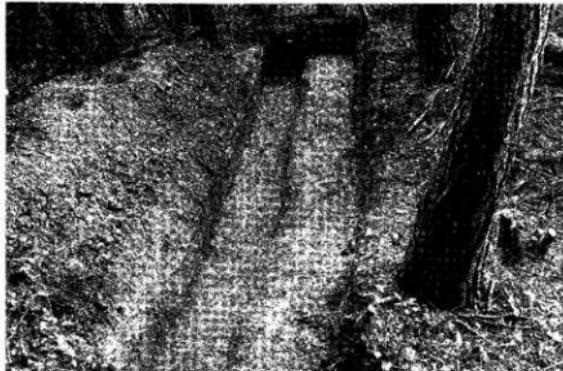


2. 横枕古墳群  
第1トレンチ造構検出状況  
(北西から)

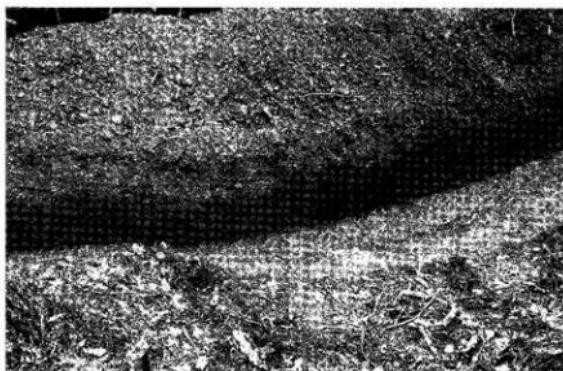


3. 横枕古墳群  
第2トレンチ断面(北から)

図版 3



1. 横枕古墳群  
第3トレンチ (東から)



2. 横枕古墳群  
第3トレンチ断面  
(北東から)



3. 横枕古墳群  
第4トレンチ断面 (南から)

図版 4



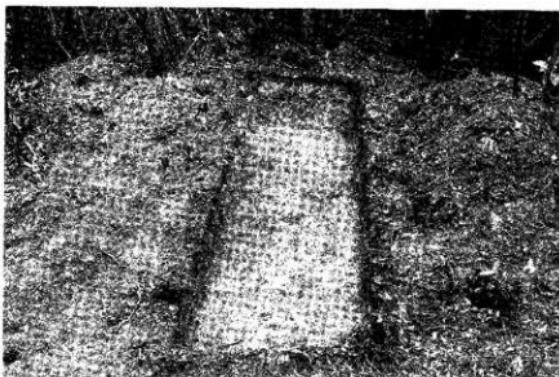
図版 5



1. 横枕古墳群  
第6トレンチ (北西から)



2. 横枕古墳群  
第6トレンチ断面 (北から)



3. 横枕古墳群  
第7トレンチ (北東から)

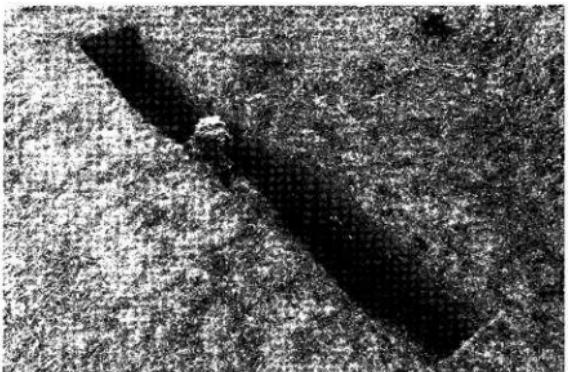
図版6



1. 横枕古墳群  
第8トレンチ断面(南から)



2. 横枕古墳群  
第9トレンチ (南西から)



3. 横枕古墳群  
第10トレンチ断面(西から)

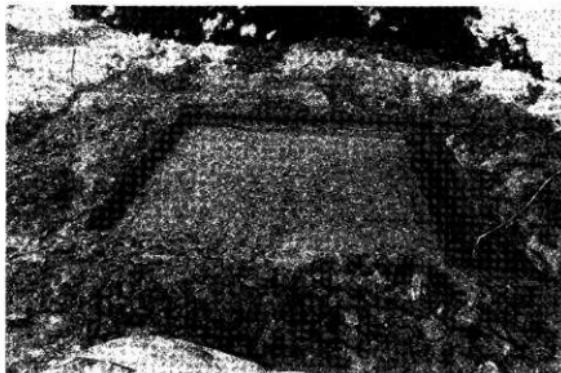
図版 7



1. 横枕古墳群  
第11トレンチ石室検出状況  
(東から)



2. 本高段木遺跡  
調査地遠景  
(北から)

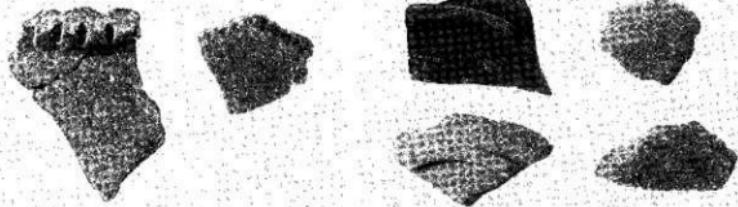


3. 本高段木遺跡  
第1トレンチ (西北西から)

図版 8

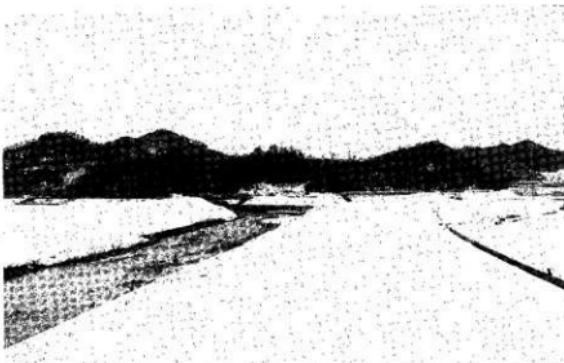


1. 本高段木遺跡  
第2トレンチ (北から)



2. 本高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物(1)

3. 本高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物(2)

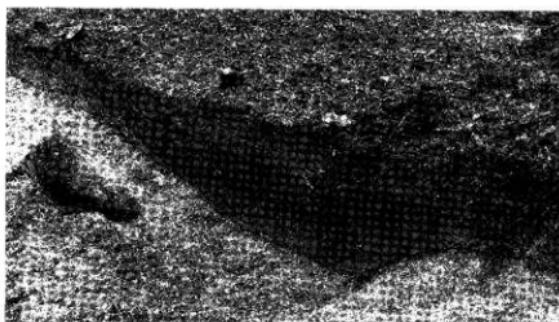


4. 服部古墳群  
調査地遠景 (北東から)

図版 9



1. 腹部古墳群  
第1トレーニチ  
(西から)



2. 腹部古墳群  
第1トレーニチ断面(1)  
(北西から)

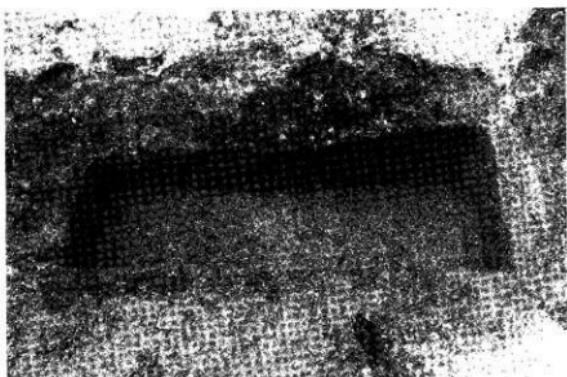


3. 腹部古墳群  
第1トレーニチ断面(2)  
(北から)

図版10



1. 脱部古墳群  
第1トレンチ断面(3)  
(北西から)



2. 脱部古墳群  
第2トレンチ (北から)



3. 脱部古墳群  
第3トレンチ断面(南から)

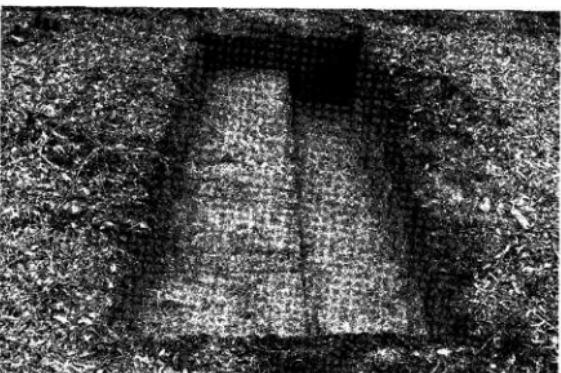
図版11



1. 服部古墳群  
第4トレンチ (東から)

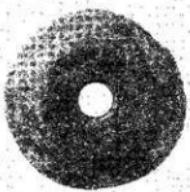


2. 服部古墳群  
第5トレンチ断面  
(南西から)



3. 服部古墳群  
第6トレンチ (南から)

図版12



1. 服部古墳群 第7トレンチ出土遺物



2. 服部古墳群 第7トレンチ断面(東北東から)



3. 服部古墳群  
第8トレンチ断面(南から)



4. 服部古墳群  
第9トレンチ断面(北から)

図版13



1. 服部所在遺跡1  
調査地遠景  
(東から)



2. 服部所在遺跡1  
第1トレンチ断面  
(北東から)



3. 服部所在遺跡1  
第2トレンチ断面(南から)

平成11(1999)年度 市内遺跡 試掘調査トレンチ一覧表

| 調査遺跡名<br>No.   | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 造構            | 遺物                         | 備考                                       |
|----------------|-------------------------|---------------|----------------------------|--|
| 横枕所在<br>遺跡1 -1 | 5.0×5.0<br>=25.0        | (暗渠)          | 須恵器片                       |  |
| 横枕所在遺跡1 調査面積   | 25.0 m <sup>2</sup>     |               |                            |  |
| 横枕古墳群<br>-1    | 18.1×2.0<br>=36.2       | 土坑            | 土師器片                       |  |
| タ<br>-2        | 10.0×1.75<br>=17.5      | -             | -                          |  |
| タ<br>-3        | 5.0×1.0<br>=5.0         | 溝状造構          | -                          | 古墳                                       |
| タ<br>-4        | 5.6×1.0<br>=5.6         | 盛土            | 須恵器片                       | T r-3と同一の古墳                              |
| タ<br>-5        | 11.3×1.1<br>≈12.4       | 盛土            | -                          | T r-3、-4と同一の古墳、および別<br>の古墳               |
| タ<br>-6        | 17.0×1.0<br>≈17.0       | 溝状造構          | 須恵器片                       | 古墳                                       |
| タ<br>-7        | 3.5×1.0<br>≈3.5         | -             | -                          |  |
| タ<br>-8        | 6.5×1.0<br>≈6.5         | 盛土<br>地山カット   | -                          | T r-6と同一の古墳                              |
| タ<br>-9        | 2.3×0.44<br>≈1.0        | 盛土            | -                          | 古墳(石室)                                   |
| タ<br>-10       | 3.5×0.44<br>≈1.5        | 盛土<br>溝状造構    | 須恵器片                       | T r-9と同一の古墳(石室)                          |
| タ<br>-11       | - × -<br>≈4.5           | 奥壁等           | -                          | T r-9、10と同一の古墳(石室)                       |
| 横枕古墳群調査面積合計    | 110.7 m <sup>2</sup>    |               |                            |  |
| 本高段木<br>遺跡 -1  | 5.21×5.25<br>≈27.3      | -             | 土師質土器片                     |  |
| タ<br>-2        | 5.19×5.32<br>≈27.6      | -             | 繩文土器片、土師器片、<br>須恵器片、土師質土器片 |  |
| 本高段木遺跡調査面積     | 54.9 m <sup>2</sup>     |               |                            |  |
| 服部古墳群<br>-1    | 73.2×1.0<br>=73.2       | 溝状造構<br>土坑状造構 | 陶器片                        |  |
| タ<br>-2        | 1.9×0.75<br>≈1.4        | -             | -                          |  |
| タ<br>-3        | 3.5×0.6<br>≈2.1         | 溝状造構          | -                          | T r-1と同一の溝状造構                            |
| タ<br>-4        | 3.8×1.1<br>≈4.1         | -             | 磁器片                        |  |
| タ<br>-5        | 5.2×1.0<br>≈5.2         | -             | -                          |  |
| タ<br>-6        | 5.03×1.97<br>≈9.9       | -             | 須恵器片                       |  |
| タ<br>-7        | 5.66×1.17<br>≈6.6       | 土壤            | 石製紡車                       |  |
| タ<br>-8        | 14.5×1.16<br>≈16.8      | -             | -                          | 小尾根上の高まり部分。県の分布図では<br>古墳としてあるが古墳とは判断できず。 |
| タ<br>-9        | 9.1×1.2<br>≈10.9        | -             | 土師器鱗片<br>鉄釘                |  |
| 服部古墳群調査面積合計    | 130.2 m <sup>2</sup>    |               |                            |  |
| 服部所在<br>遺跡1 -1 | 5.5×1.0<br>≈5.5         | -             | -                          |  |
| タ<br>-2        | 5.4×1.0<br>≈5.4         | -             | -                          |  |
| 服部所在遺跡1 調査面積合計 | 10.9 m <sup>2</sup>     |               |                            |  |
| 調査面積総合計        | 331.7 m <sup>2</sup>    |               |                            |  |

# 報告書抄録

|                       |   |            |                |                                |                           |                           |        |
|-----------------------|---|------------|----------------|--------------------------------|---------------------------|---------------------------|--------|
| ふりがな                  | 平成11(1999)ねんど ととちしあいきせきじくつちょうきめいほけにしこ     |            |                |                                |                           |                           |        |
| 書名                    | 平成11(1999)年度 鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書              |            |                |                                |                           |                           |        |
| 副書名                   | 横枕所在遺跡1・横枕古墳群・本高段木遺跡・服部古墳群・服部所在遺跡1        |            |                |                                |                           |                           |        |
| 卷次                    |   |            |                |                                |                           |                           |        |
| シリーズ名                 |   |            |                |                                |                           |                           |        |
| シリーズ番号                |   |            |                |                                |                           |                           |        |
| 編著者名                  | 前田 均 山田真宏 平川 藏                            |            |                |                                |                           |                           |        |
| 編集機関                  | 鳥取市教育委員会                                  |            |                |                                |                           |                           |        |
| 所在地                   | 〒680-0047 鳥取県鳥取市上魚町39 TEL (0857) 22-8111㈹ |            |                |                                |                           |                           |        |
| 発行年月日                 | 西暦 2000年 3月31日                            |            |                |                                |                           |                           |        |
| ふりがな<br>所収遺跡名         | ふりがな<br>所在地                               | コード<br>市町村 | 北緯<br>遺跡番号     | 東経                             | 調査期間                      | 調査面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 調査原因   |
| よこせらしょせい 1<br>横枕所在遺跡1 | 鳥取市横枕                                     | 31201      |                | 35° 134°<br>27' 11'<br>11" 43" | 19991020<br>~<br>19991025 | 25.0                      | 浄水施設整備 |
| よこせらしょくふんぐん<br>横枕古墳群  | 鳥取市横枕                                     | 31201      |                | 35° 134°<br>27' 11'<br>20" 42" | 19991020<br>19991119      | 110.7                     | 浄水施設整備 |
| もとだかせき 1<br>本高段木遺跡    | 鳥取市本高                                     | 31201      |                | 35° 134°<br>28' 12'<br>31" 06" | 19991227<br>19991229      | 54.9                      | 道路整備   |
| はつとう 1<br>服部古墳群       | 鳥取市服部                                     | 31201      |                | 35° 134°<br>28' 11'<br>31" 58" | 20000119<br>20000223      | 130.2                     | 道路整備   |
| はつとう 1<br>服部所在遺跡1     | 鳥取市服部                                     | 31201      |                | 35° 134°<br>28' 11'<br>25" 56" | 20000223<br>20000223      | 10.9                      | 道路整備   |
| 所収遺跡名                 | 種別  | 主な時代       | 主な遺構           | 主な遺物                           | 特記事項                      |                           |        |
| 横枕所在遺跡1               | 散布地                                       | 古墳?        | -              | 暗渠から須恵器                        | 試掘調査として実施                 |                           |        |
| 横枕古墳群                 | 古墳  | 古墳         | 石室、墓上、溝状造構、土坑  | 須恵器                            | 試掘調査として実施                 |                           |        |
| 本高段木遺跡                | 散布地                                       | 縄文~奈良・平安   | -              | 縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器             | 試掘調査として実施                 |                           |        |
| 服部古墳群                 | 古墳  | 古墳         | 上坑(土壙)状造構、溝状造構 | 土師器、須恵器、鉄釘、石製紡車、陶器、磁器          | 試掘調査として実施                 |                           |        |
| 服部所在遺跡1               | 古墳?                                       | -          | -              | -                              | 試掘調査として実施                 |                           |        |

---

平成11(1999)年度  
鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

平成12年3月 印刷・発行

編集・発行 鳥取市教育委員会  
印刷所 株式会社 矢谷印刷所

---